

ケチュア語の接辞（Ⅱ）

青木 芳夫，アンヘリカ・パロミーノ＝青木

Los Sufijos del Idioma Quechua: Segunda Parte

Yoshio AOKI y Angélica PALOMINO DE AOKI

奈良大学紀要 第21号別刷 平成5年3月

Reprinted from Memoirs of Nara University

No. 21, March 1993

ケチュア語の接辞（Ⅱ）

青木 芳夫*，アソヘリカ・パロミーノ＝青木**

Los Sufijos del Idioma Quechua: Segunda Parte

Yoshio AOKI y Angélica PALOMINO DE AOKI

（要 旨）

本稿は、本誌前号所収の拙稿「ケチュア語の接辞」の続編に当たる。前稿では、これまで他の品詞と結合した形でしか収録されてこなかったケチュア語の接辞をアルファベット順に整理し、例文を付して簡潔な説明を加えたが、人称ごとに異なる接辞が対応するようなグループは説明から除外した。本稿では、それらの接辞群、つまり動詞の語尾、人称代名詞の所有格や目的格に相当する接辞を紹介したい。

Ⅰ はじめに

本稿は、本誌前号所収の拙稿「ケチュア語の接辞」の続編に当たる。前稿では、これまで他の品詞と結合した形でしか収録されてこなかったケチュア語の接辞をアルファベット順に整理し、例文を付して簡潔な説明を加えたが、人称ごとに異なる接辞が対応するようなグループは説明から除外した。本稿では、それらの接辞群、つまり動詞の語尾（「主語活用接辞」）、人称代名詞の所有格（「人称所有接辞」）や目的格に相当する接辞（「代名詞的接辞」）を紹介したい。

なお、本稿もまた、前稿と同じく、ケチュア諸語の中のペルー・クスコ地方の現在のケチュア語を例にとっていることと、ケチュア語の表記については1975年10月にペルー政府により制定された正書法（教育大臣令第4023-75号）にほぼ準拠していることを確認しておく。

Ⅱ 動詞の語尾に相当する接辞

ケチュア語の場合、動詞の不定形はふつう動詞の語幹に-Yを接続することによって表わされる。例えば、「話す」という動詞の不定形は「RIMA-Y」である。そしてこの語尾の部分には、以下の通り、人称・数・時制・法等に応じて異なる接辞（「主語活用接辞」）が対応してくる。なお、参考のため、現在形（A a）には主語人称代名詞を併記する。

(A) 時制
a. 現在

私は話す	NOQA RIMA-NI
君は話す	QAN RIMA-NKI
彼は話す	PAY RIMA-N
私たちは話す (排他的 ¹⁾)	NOQAYKU RIMA-YKU
私たちは話す (包括的 ¹⁾)	NOQANCHIS RIMA-NCHIS
君たちは話す	QANKUNA RIMA-NKICHIS
彼らは話す	PAYKUNA RIMA-NKU

〈例文〉

- ① Noqa¹ qheswa²-ta³ rima⁴-ni⁵.
(私は^{1,5}、ケチュア語²を³話し⁴ます⁵。)
- ② Paykuna¹-pas² allin³-ta⁴ rima⁵-nku⁶.
(彼ら^{1,6}も²、上手³に⁴話し⁵ます⁶。)
- ③ Noqayku¹-qa² orqo³-man⁴ ri⁵-yku⁶. Qan⁷, may⁸-man⁹ ri¹⁰-nki¹¹?
(私たち¹は²、山³へ⁴行き⁵ます⁶。君は⁷、どこ⁸へ⁹行き¹⁰ます¹¹か?)

ケチュア語の場合、「主語活用接辞」から主語の人称等を判断することが出来るので、ふつう主語人称代名詞は省略される。例えば、例文①の場合、主語人称代名詞「Noqa」を省略することが出来る。ただし、「君でも彼でもなく、この私が」というニュアンスを表現したいのであれば、例文③のように、「話題を提示する」ための接辞「-QA」〔前稿参照〕を接続すること。

なお、ケチュア語の現在時制は、単に習慣的行為やものごとの存在・状態についての現在だけでなく、肯定文や否定文では現在完了していることを表わすことがあるので、前後の文脈に注意する必要がある。

〈例文〉

- ① “Kachi¹-ta² apa³-ranki⁴-chu⁵?” “Ari⁶, apa⁷-ni⁸.”
(「あなたは⁴塩¹を²持っていき³ました⁴か⁵?’ 「はい⁶、私は⁸持っていき⁷ました⁸。」)
- ② “Papa¹-ta² mikhu³-ranki⁴-ña⁵-chu⁶?” “Mana⁷-raq⁸ mikhu⁹-ni¹⁰-chu¹¹.”
(「あなたは⁴もう⁵ジャガイモ¹を²食べ³ました⁴か⁶?’ 「私は¹⁰まだ⁸食べて⁹はいません^{7,11}。」)

b. 過去

ケチュア語の過去時制には、4種類のことを考えることが出来る。つまり、単純過去、伝聞過去、習慣的過去、および習慣的過去の伝聞形である。まず、単純過去から見ることにしよう。単純過去はふつう「完了過去²⁾ (pasado perfecto)」と呼ばれるように、すでに終了したことがらを表現するためのものである。

私は話した	RIMA-RANI	私たちは話した（排他的）	RIMA-RAYKU
		私たちは話した（包括的）	RIMA-RANCHIS
君は話した	RIMA-RANKI	君たちは話した	RIMA-RANKICHIS
彼は話した	RIMA-RAN	彼らは話した	RIMA-RANKU

〈例文〉

- ① Noqa¹-qa² ch' uñu³-ta⁴ mikhu⁵-rani⁶.
（私^{1・6}は²、凍結乾燥ジャガイモ³を⁴食べ⁵ました⁶。）
- ② Paykuna¹-qa² Qosqo³-pi⁴ qheswa⁵-ta⁶ yacha⁷-ranku⁸.
（彼ら^{1・8}は²、クスコ³で⁴ケチュア語⁵を⁶勉強し⁷ました⁸。）

単純過去形と現在形を比較すれば、単純過去形は「-RA＋現在形」であることが分かる。つまり、-RAを過去の時制を表わす接辞と見做すことも出来よう。なお、-RAの代わりに-RQAという形をとる場合があるが、意味はまったく同じである。

ケチュア語の二番目の過去形は伝聞過去形（「pasado reportativo」）であり、「過去完了形（pasado pluscuamperfecto）」とも呼ばれ、-RAないし-RQAの代わりに-SQAという形をとる。ただし、下表のとおり、三人称の語尾が一部脱落している。

-RA（-RQA）を伴う単純過去形が、話し手が直接体験したことがらを表現するのに対して、-SQAのほうの伝聞過去形は話し手が直接は体験しなかったことを表現する。例えば、他人からの伝聞によるとか、あるいは話し手本人の体験であるにせよ、幼かったり、夢の中だったり、泥酔のために無自覚の状態であったとかの場合である。より厳密に言えば、話し手が他人から聞いて初めて知ったことを表わす。また、推量・伝聞の接辞「-SI/-S」と併用し、話し手側の不確かさを表わすことも出来る。例文を参照のこと。

	単 数	複 数
一人称	RIMA-SQANI	（排他的） RIMA-SQAYKU
〃		（包括的） RIMA-SQANCHIS
二人称	RIMA-SQANKI	RIMA-SQANKICHIS
三人称	RIMA-SQA	RIMA-SQAKU

〈例文〉

- ① Kay¹-pi²-pas³ Ainu⁴-runa⁵-kuna⁶-qa⁷ qasi⁸-ta⁹ kawsa¹⁰-sqaku¹¹.
（当地¹で²も³、アイヌ⁴人⁵達⁶が⁷、平和⁸に⁹暮らして¹⁰いたという¹¹。）
- ② Yachachiq¹-ni²-nchis³-qa⁴ onqo⁵-sqa⁶.
（私たちの³先生¹が⁴病気に⁵なったそう⁶だ⁶。／病気になる⁵ったんだ⁶って。）
- ③ Machasqa¹ imaymana²-ta³ rima⁴-sqa⁵-ni⁶.
（私は⁶酔っ払って¹、いろんなこと²を³話し⁴たそう^{5・6}だ⁶。）
- ④ Mosqoy¹-ni²-y³-pi⁴ amigu⁵-y⁶-kuna⁷ -qa⁸ noqa⁹ -manta¹⁰ rima¹¹-sha¹²-sqaku¹³.
Karta¹⁴-qa¹⁵ chaya¹⁶-mu¹⁷-nqa¹⁸.

(私の³夢¹の中で⁴、私の⁶友⁵達⁷が私⁹のことを¹⁰話し¹¹ていた^{12・13}。手紙¹⁴が¹⁵、当地に¹⁷着く¹⁶だろう¹⁸。)

- ⑤ Mama¹-y²-qa³ Qosqo⁴-pi⁵-s⁶ tayta⁷-y⁸-wan⁹ reqsi¹⁰-naku¹¹-sqaku¹².
(私の²母¹は³、クスコ⁴で⁵私の⁸父⁷と⁹知り¹⁰合っ¹¹たのですって^{12・6}。)

このように、「-RA(-RQA)」形と「-SQA」形とは、基本的には単純過去か伝聞過去か、という意味上の相違である。スペイン語で書かれた文法書では、完了過去 (pasado perfecto) に対する過去完了 (pasado pluscuamperfecto) として紹介される場合が多いが、これは誤解を生みやすい表現でもある。ケチュア語は、スペイン語よりも、同じ膠着語の仲間である日本語で考えたほうが理解しやすいことが多々あるようだ。

三番目の過去形は習慣的過去 (pasado habitual) で、「……したものだ」という日本語文のような意味になる。下表のとおり、-Qを接続した動詞とKAY動詞の現在形とを組み合わせることにより作ることが出来る。なお、KAY動詞の単純過去形 (「-RA」形) が使用されることもある。

	単 数	複 数
一人称	RIMA-Q KA-NI	(排他的) RIMA-Q KA-YKU
〃		(包括的) RIMA-Q KA-NCHIS
二人称	RIMA-Q KA-NKI	RIMA-Q KA-NKICHIS
三人称	RIMA-Q	RIMA-Q KA-NKU (またはRIMA-QKU)

<例文>

- ① Noqa¹ hamu²-q³ ka⁴-ni⁵.
(私は^{1・5}、よく³来²たものです^{3・4・5}。)
- ② Tayta¹-y²-wan³ sara⁴-ta⁵ tarpu⁶-q⁷ kara⁸-yku⁹.
(私の²父¹と一緒に³、私[たち]は⁹トウモロコシ⁴を⁵よく⁷播いた⁶ものです^{7・8・9}。)

最後の四番目の過去形は習慣的過去の伝聞形 (pasado habitual pluscuamperfecto) で、「……したものだったそうだ」という日本語文に相当する。下表のとおり、KAY動詞の現在形ないし単純過去形の代わりに伝聞過去形を使用する。

	単 数	複 数
一人称	RIMA-Q KASQANI	(排他的) RIMA-Q KASQAYKU
〃		(包括的) RIMA-Q KASQANCHIS
二人称	RIMA-Q KASQANKI	RIMA-Q KASQANKICHIS
三人称	RIMA-Q KASQA	RIMA-Q KASQAKU

<例文>

- ① Wawa¹-cha² kasha³-spa⁴-y⁵-qa⁶ allinta⁷ waqa⁸-q⁹ kasqa¹⁰-ni¹¹.
(私が⁵赤ちゃん^{1・2}だった³ときに⁴は⁶、私は¹¹よく⁷泣いた⁸もの⁹だったそうです^{9・10・11}。)
- ② Kay¹-pi²-qa³ trigu⁴-qa⁵ mana⁶ ruru⁷-q⁸-chu⁹ kasqa¹⁰.
(ここ¹で²は³、小麦⁴は⁵実ら⁷なか⁹った¹⁰もの⁸だそうです^{8・9・10}。)

c. 未来

私は話すだろう RIMA-SAQ	私たちは話すだろう(排他的) RIMA-SAQKU	
	私たちは話すだろう(包括的) RIMA-SUN	
	//	RIMA-SUNCHIS
君は話すだろう RIMA-NKI	君たちは話すだろう	RIMA-NKICHIS
彼は話すだろう RIMA-NQA	彼らは話すだろう	RIMA-NQAKU

<例文>

- ① Para¹-nqa²-chá³.
(雨が降る¹でしょう^{2,3}。)
- ② Noqa¹-pas² qheswa³-ta⁴ yacha⁵-saq⁶.
(私¹も²ケチュア語³を⁴勉強⁵しよう⁶。)
- ③ Yachaywasi¹-man² chaki³-pi⁴ ri⁵-sunchis⁶.
(私たちは⁶、学校¹へ²徒歩³で⁴行き⁵ましょう⁶。)

(B) 法

a. 直接法

前節(A)で説明してきたものが、通常の陳述を表わす直接法 (modo indicativo) である。

b. 条件法

条件法 (modo condicional) とは、ある行為の実現可能性ないし不可能性を示すための法であり、接続法 (modo subjuntivo) とか可能法 (modo potencial) とか呼ばれる。この法には未来と過去の二種があり、単純条件法 (simple) と複合条件法 (compuesto) と呼ばれたり、あるいは不完了過去時制 (preterito imperfecto) と過去完了時制 (preterito pluscuamperfecto) に分類されたりすることもある。

条件法未来は、原則として「動詞語幹＋直説法現在の活用接辞＋-MAN」で表わされるが、人称によっては例外的な形の接辞や短縮形のほうがよく使用されるようになっている。

私は話すのだが RIMA-Y-MAN	私たちは(排他的)は話すのだが RIMA-YKU-MAN	
	私たちは(包括的)は話すのだが RIMA-SWAN	
	//	RIMA-SUN-MAN
	//	RIMA-SUNCHIS-MAN
君は話すのだが RIMA-WAQ	君たちは話すのだが	RIMA-WAQCHIS
// (RIMA-NKI-MAN)	//	(RIMA-NKICHIS-MAN)
彼は話すのだが RIMA-N-MAN	彼らは話すのだが	RIMA-NKU-MAN

<例文>

- ① Mana¹ para²-qti³-n⁴-qa⁵ beisbol⁶-ta⁷ puklla⁸-sun⁹-man¹⁰.
(雨が降ら²な¹ければ^{3,5}、私たちは⁹野球⁶を⁷する⁸のに^{9,10}。)
- ② Qolqe¹-y² ka³-n⁴-man⁵, allin⁶-ta⁷ mikhu⁸-y⁹-man¹⁰.
(私は⁹、私の²お金が¹ [それが⁴] あれ³ば⁵、たくさん⁶食べ⁸られるのに^{9,10}。)
- ③ Yaw¹, unu²-ta³ apa⁴-mu⁵-waq⁶-chu⁷?
(ねえ¹、水²を³持って⁴きて⁵くれないかい^{6,7} ?)

- ④ Mana¹ apa²-mu³-y⁴-man⁵-chu⁶.
(私は⁴、持って²きて³やれないよ^{1・5・6}。)

条件法過去は、条件法未来形に、KAY動詞の三人称単数の過去形「KA-RA-N」（ないし「KA-RQA-N」）を付加することによって作ることが出来る。表は省略する。

〈例文〉

- ① Mana¹ para²-qti³-n⁴-qa⁵ beisbol⁶-ta⁷ puklla⁸-sun⁹-man¹⁰ karan¹¹.
(雨が降ら²な¹かったならば^{3・5}、私たちは⁹野球⁶を⁷する⁸のだった¹¹が^{9・10}。)
- ② Qolqe¹-y² ka³-n⁴-man⁵ karan⁶, liwru⁷-ta⁸ rant⁹-y¹⁰-man¹¹ karan¹².
(私は¹⁰、私の²お金が¹ [それが⁴] あ³ったならば^{5・6}、本⁷を⁸買⁹った¹²のだが^{10・11}。)
- ③ Sara¹-ta² tarpu³-sun⁴-man⁵ karan!⁶
(私たちは⁴、トウモロコシ¹を²播いて³おればよかった^{4・5・6}！)
- ④ Qheswa¹-ta² yacha³-waq⁴ karan⁵!
(君は⁴、ケチュア語¹を²勉強して³おくべきだった^{4・5}！)

c. 命令法

命令法 (modo imperativo) には二人称に対する直接命令法と三人称に対する間接命令法とがあり、下表の通り、動詞の語幹にそれぞれの接辞を接続させることにより作ることが出来る。命令だけでなく、願望を表わすこともある。

君が話さない	RIMA-Y
君たちが話さない	RIMA-YCHIS
彼が話すように [言いなさい]	RIMA-CHUN
彼らが話すように [言いなさい]	RIMA-CHUNKU

〈例文〉

- ① Unu¹-ta² apa³-mu⁴-wa⁵-y⁶.
(私に⁵水¹を²持って³き⁴なさい⁶。)
- ② Pisi¹-pisi²-manta³ yacha⁴-chu⁵-nku⁶.
(彼らが⁶少し^{1・2}づつ³勉強する⁴ように⁶ [言ってください]。)

(C) その他

すべての時制、すべての法をつうじて進行形 (aspecto progresivo) が存在するが、これは接辞「-SHA」を付加することにより、作ることが出来る。詳しくは前稿の-SHAの項を参照のこと。

III 人称代名詞の所有格に相当する接辞

所有接辞としては、名詞・代名詞に接続する-PA (ないし-Q) [前稿参照] が存在するが、それ以外に「人称代名詞の所有格」に相当する接辞群が存在する。それらは以下の通りである。

私の	-Y	私たちの (排他的)	-YKU
		私たちの (包括的)	-NCHIS
君の	-NKI	君たちの	-NKICHIS
彼の	-N	彼らの	-NKU

(A) これらの接辞は、名詞に接続する場合、文字通り、その所有者が誰かを表わす。なお、「名詞ないし代名詞プラス-PA（ないし-Q）」と併用される場合がある。また、三人称の形態（-Nないし-NKU）は人物だけでなく、動物・植物・自然等、あらゆるものを受けることができる。

〈例文〉

- ① wasi¹-y²
(私の²家¹)
- ② Kay¹-qa² noqa³-q⁴ wasi⁵-y⁶-mi⁷.
(確かに⁷、これ¹が²私の^{3・4/6}家⁵です。)
- ③ Pay¹-pa² wasi³-n⁴-pi⁵ noqa⁶ llank' a⁷-ni⁸.
(私は^{6・8}、彼の^{1・2/4}家³で⁵働きます^{7・8}。)
- ④ Asnu¹-q² uña³-n⁴-qa⁵ yana⁶.
(ロバ¹の^{2・4}子³は⁵、黒い⁶。)
- ⑤ Huk¹ kuntur²-qa³ orqo⁴-q⁵ hawa⁶-n⁷-ta⁸ phawa⁹-sha¹⁰-n¹¹.
(一羽の¹コンドル²が³、山⁴の⁵ [その⁷] 上⁶を⁸翔んで⁹います^{10・11}。)

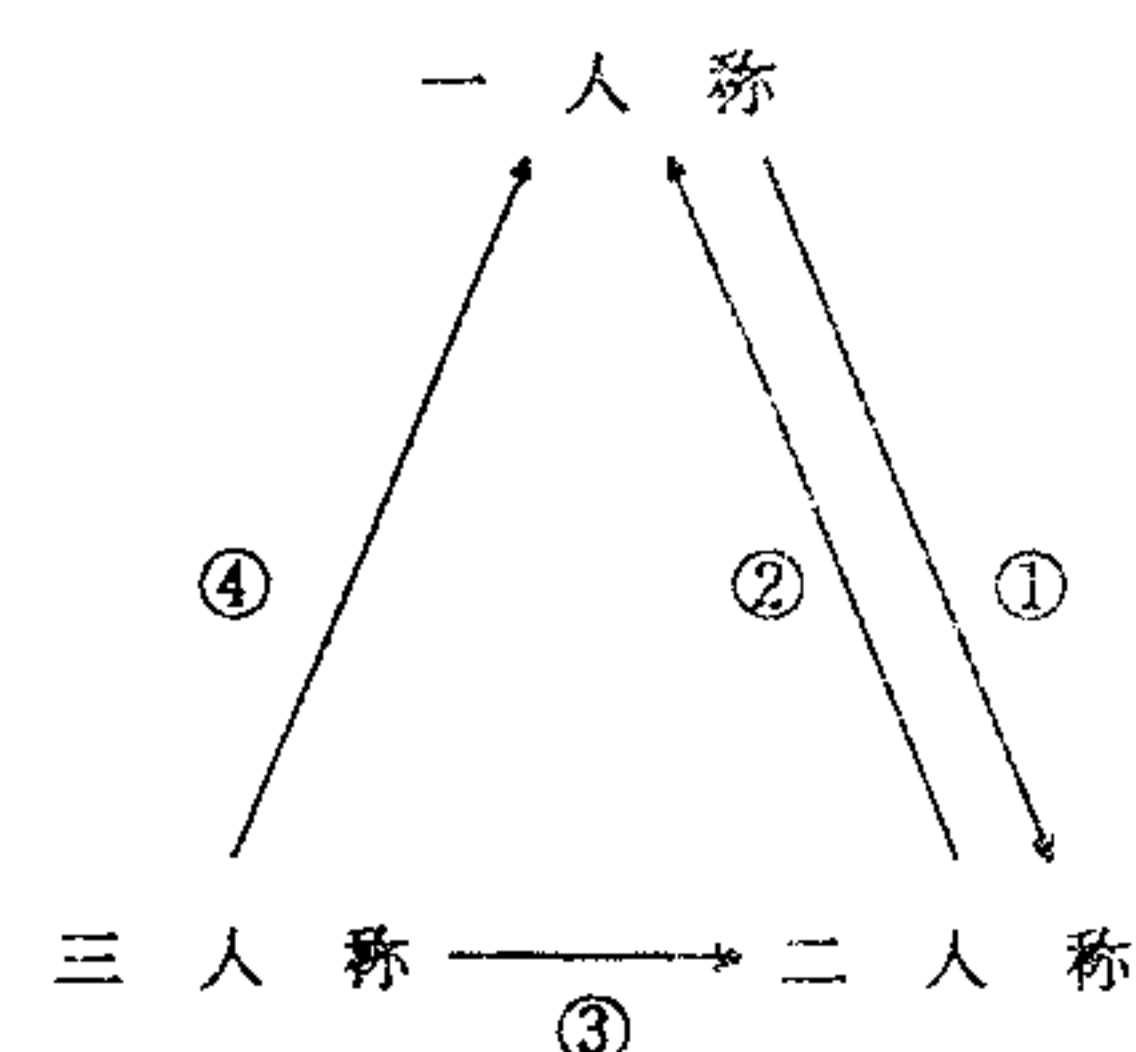
(B) しかし、これらの接辞が動名詞句（動詞語幹＋-NA＋当該接辞＋-PAQ）等の中で使用され、従属節を形成する場合、その動詞の主語（行為者）を表わすことになる。ただし、接辞「-QTI」ないし「-SPA」と従属節を形成する場合、当該接辞は「-QTI」ないし「-SPA」の前ではなく、後に位置する³⁾。

〈例文〉

- ① Qhatu¹(-man²) ri³-ru⁴-na⁵-y⁶-kama⁷ wawa⁸-y⁹-ta¹⁰ qhawa¹¹-sha¹²-nki¹³!
(私が⁶市場¹へ²行っている^{3・4・5}間⁷、あなたは¹³私の⁹赤ちゃん⁸を¹⁰見て¹¹いて¹²下さい¹³！)
- ② Japones¹-kuna²-qa³ llank' a⁴-na⁵-nku⁶-paq⁷ kawsa⁸-nku⁹.
(日本人¹たち²は^{3/9}、[彼らは⁶] 働く^{4・5}ために⁷生き⁸ます⁹。)
- ③ Yanapari¹-wa²-na³-yki⁴-rayku⁵-qa⁶ mañayusqa⁷-yki⁸-yá⁹ asnu¹⁰-y¹¹-ta¹².
(あなたが⁴私を²手伝ってくれる¹なら⁵ば⁶、あなたに⁸私の¹¹ロバ¹⁰を¹²お貸ししまし
う⁷とも⁹。)
- ④ Taki¹-qti²-yki³ kusi⁴-ku⁵-ni⁶.
(あなたが³歌う¹とき²、私は⁶楽しく^{4・5}なる⁶。)
- ⑤ Llank' ana¹ ka²-qti³-n⁴-qa⁵ kay⁶ llaqta⁷-pi⁸ qhepa⁹-ku¹⁰-saq¹¹.
(仕事¹が⁴ある²なら³ば⁵、私は¹¹この⁶村⁷に⁸残る^{9・10}う¹¹。)
- ⑥ Mikhuy¹-ta² tuku³-spa⁴-yki⁵-ña⁶ llank' a⁷-q⁸-qa⁹ ri¹⁰-nki¹¹!
(あなたは¹¹、[あなたが⁵] 食事¹を²終わって³しまつて⁶から⁴働き⁷に⁸は⁹行け¹⁰ばよい¹¹。)

IV 人称代名詞の目的格に相当する接辞

「人称代名詞の目的格」に相当する接辞群は、ふつう「代名詞的接辞 (sufijos pronominales)」とか「移行の接辞 (sufijos de transición)」と呼ばれているものである。これらは、前章の人称所有接辞群の例のようには、図表化することが出来ない。しかし、前々章の活用接辞群を「主語活用」の人称接辞と捉え、これに対して当章の「目的格」接辞プラス語尾



接辞を「対象活用」の人称接辞と捉えるならば、直接法現在・過去・未来の3時制を例にとれば⁴⁾、前頁のように図表化することが出来よう。ただし、この現象はすべての人称の間で見られるのではなく、今日では次の四つの事例においてのみである（前頁の図参照）。

主 語 → 目的語	現 在	過 去 ¹	未 来 ²
一・単 二・単	MUNA-YKI	MUNA-RA-YKI	MUNA-SA-YKI
一・単 二・複	MUNA-YKICHIS	MUNA-RA-YKICHIS	MUNA-SA-YKICHIS
一・複 ³ 二・単	MUNA-YKIKU	MUNA-RA-YKIKU	MUNA-SA-YKIKU
一・複 二・複	MUNA-YKIKU ⁴	MUNA-RA-YKIKU	MUNA-SA-YKIKU
二・単 一・単	MUNA-WA-NKI	MUNA-WA-RA-NKI	MUNA-WA-NKI
二・単 一・複	MUNA-WA-NKI	MUNA-WA-RA-NKIKU	MUNA-WA-NKI
二・複 一・単	MUNA-WA-NKICHIS	MUNA-WA-RA-NKICHIS	MUNA-WA-NKICHIS
二・複 一・複	MUNA-WA-NKICHIS	MUNA-WA-RA-NKIKU	MUNA-WA-NKICHIS
三・単 二・単	MUNA-SU-NKI	MUNA-RA-SU-NKI	MUNA-SU-NKI
三・単 二・複	MUNA-SU-NKICHIS	MUNA-RA-SU-NKICHIS	MUNA-SU-NKICHIS
三・複 二・単	MUNA-SU-NKIKU	MUNA-RA-SU-NKIKU	MUNA-SU-NKIKU
三・複 二・複	MUNA-SU-NKICHIS	MUNA-RA-SU-NKICHIS	MUNA-SU-NKICHIS
三・単 一・単	MUNA-WA-N	MUNA-WA-RA-N	MUNA-WA-NQA
三・単 一・複・包	MUNA-WA-NCHIS	MUNA-WA-RA-NCHIS	MUNA-WA-SU-NCHIS
〃			MUNA-WA-SUN
三・単 一・複・排	MUNA-WA-NKU	MUNA-WA-RA-NKU	MUNA-WA-NQAKU
三・複 一・単	MUNA-WA-NKU	MUNA-WA-RA-NKU	MUNA-WA-NQAKU
三・複 一・複・包	MUNA-WA-NCHIS	MUNA-WA-RA-NCHIS	MUNA-WA-SU-NCHIS
三・複 一・複・排	MUNA-WA-NKU	MUNA-WA-RA-NKU	MUNA-WA-NQAKU

(注) 1. 過去時制では「-RA」の代わりに「-RQA」を使用することも出来る。
2. 一人称の未来時制では「-SA」の代わりに「-SQA」を使用することが出来る。
3. 「一・複」は、但し書きのないかぎり、排他的一人称複数を意味する。
4. 同形の場合は、ふつう前後の文脈から判断するが、特に必要な場合は、例えばこの事例では「QANKUNA-MAN」を補足することにより、「君に」ではなく、「君たちに」であることを明確にすることも出来よう。

〈例文〉

- ① Tukuy¹ sonqo²-y³-wan⁴ muna⁵-ku⁶-yki⁷.
(私の³心²のすべて¹により⁴ [=心の底から]、私は君を⁷愛します^{4・5・6}。)
- ② Noriko¹-qa² japon³-ta⁴ yachachi⁵-wa⁶-ra⁷-n⁸.
(のり子さん¹が²、私に⁶日本語³を⁴教えて⁵くれました^{7・8}。)

③ Paykuna¹-qa² t' anta³-ta⁴ apa⁵-mu⁶-sunkichis⁷.(彼ら¹が²、あなた方に⁷パン³を⁴持って⁵くる⁶でしょう⁷。)

なお、この接辞群は、例文①のように直接目的語や、例文②・③のように間接目的語を示すだけでなく、受益者や被害者など関係者一般を示す場合がある。

〈例文〉

① Ch' isi¹ awila²-y³-qa⁴ wañu⁵-pu⁶-wa⁷-n⁸.(昨夜¹、私の³祖母²が⁴私に⁷ [=私を残して] 死んで⁵しまい⁶ました⁸。)② Pedro¹-qa² P' isaq³-ta⁴ t' anta⁵-man⁶ ri⁷-pu⁸-wa⁹-ra¹⁰-n¹¹.(ペドロ¹は²、ピサク³へ⁴私 [のため] に⁹パン⁵を⁶ [買いに、あるいは取りに] 行って^{7,8}くれました^{10,11}。)③ Awila¹-y²-qa³ onqo⁴-pu⁵-wa⁶-sha⁷-n⁸.(私の² [大好きな⁶] おばあちゃん¹が³病気になって^{4,5}いる⁷のです⁸。)

また、上のような図表化からも推量できるとおり、一人称の「-WA」を除いて、これら人称代名詞の目的格に相当する接辞は、動詞の語尾を示す接辞から分離することは不可能になっている。ただし、例えばクシワマン [Cusihuamán G. 1976: 164-165] は次のような考え方、つまり「受け手＝客体のマーカ―」という考え方を提示している。

(i) 一人称が受け手であるときのマーカ―……-WA

(ii a) 二人称が受け手であるときのマーカ―

一人称が行為者＝主体であるとき………-KI

(ii b) 二人称が受け手であるときのマーカ―

三人称が行為者＝主体であるとき………-NKI

(iii) 三人称が受け手であるときのマーカ―……ゼロ (なし)

そして (ii a) の場合、「行為者＝主体が一人称であること」のマーカ―「-Y」と結合することにより、図表中の「-YKI」が生まれる。また同様にして、(ii b) の場合、「行為者＝主体が三人称であること」のマーカ―「-SU」と結合することにより、図表中の「-SUNKI」が生まれるのである。

なお、このような接辞群がなぜ発達してきたのか、普通の対格接辞「-TA」や与格接辞「-MAN」の使用（前稿参照）がなぜ忌避されてきたのかは、非常に興味ぶかい点であるが、確たる解答は得られない。ただし、話し手と聞き手が自分たちのことを直接話題にするとき、「-TA」を使用したならば、モノ扱いされたりモノ扱いしたりする、というニュアンスにケチュア語話者は受け取るようである。「-TA」が使用される事例を強いて挙げるならば、次のような場面が考えられる。

〈文例〉

① “Muna¹-ni².” “Ima³-ta⁴?” “Qan⁵-ta⁶.”(「[私は²] ほしい¹。」「何³を⁴?」「君⁵を⁶。」)

ともあれ、このような接辞群は、いわばケチュア語をもっともケチュア語らしくしている要素の一つなのである。

最後に、筆者である青木芳夫はラテンアメリカ地域研究、特に歴史学が専門であり、またケチュア語を母語とするパロミーノ＝青木アンヘリカはペルー・クスコ市のアンデス司牧研究所で数年間第二言語としてのケチュア語会話の講師を務めた経験があるのみである。したがって、

本稿もまた、前稿と同じく、言語学的には物足りない部分、あるいは初歩的な誤りがあるかもしれない⁵⁾。しかしながら、この小論が、一人でも多くの日本語話者がケチュア語を勉強するきっかけとなるならば、筆者らにとって望外の喜びとなるだろう。

【追記】

前稿に以下のような誤りがありました。深謝します。「ページ／行……誤→正」の順に訂正します。

「91/27……Juliaka→Julika」「92/18……-na→-ña」「92/21……-MA→-MÁ」「96/29……lisapaqpis→lispapaqpis」「96/33……mosqhokunipás→mosqhokunipas」「97/6……彼→私」「97/14-15……PTIの項→一括削除」「97/34……yachata→aychata」「100/14……-SAQ→-SQA」「102/7……-YA→-YÁ」「104/6……副詞的→副詞句」

【注】

- 1) 排他的一人称複数とは「話し手」側のみの一人称複数であり、これに対して包括的一人称複数とは「聞き手」側をも含んだ一人称複数である。
- 2) 「不定過去 (pasado indefinido)」と呼ぶ場合もある。例えば、[IPA n.d.] 参照。
- 3) [青木・パロミーノ＝青木 1992: 103-104] 参照。
- 4) すべての法、すべての時制を通じて「対象活用接辞」が存在する。本稿では、紙幅の都合上、省略した。
- 5) 南アメリカ先住民言語について言語学専攻では日本ではまだ唯一の研究者とっていい細川弘明さんの説明 [細川 1988] は、本稿執筆上で非常に参考になった。

【参考文献】

青木芳夫、パロミーノ＝青木アンヘリカ

1992 「ケチュア語の接辞」『奈良大学紀要』第20号

Cusihuamán G., Antonio

1976 *Gramática quechua: Cusco-Collao*. Lima, Min. de Educación/IEP.

細川弘明

1988 「ケチュア語族」ほか、『言語学大辞典』第一巻「世界言語編（上）」（亀井孝・河野六郎・千葉栄一編著）東京、三省堂。

IPA[Instituto de Pastoral Andina], Equipo de Quechua

n.d. *Runasimi: Qosqo Qollaw*. 25 lecciones, Cusco, IPA.

パロミーノ＝青木アンヘリカ

1988 「アンヘリカの現代ケチュア語入門（一）」（青木芳夫訳）『資料ラテンアメリカ』第10号、京都、ラテンアメリカ資料センター。

Soto Ruiz, Clodoaldo

1979 *Quechua: Manual de enseñanza* Lima, IEP[Instituto de Estudios Peruanos]

Resumen

Este artículo es una continuación de nuestro artículo publicado en el anterior número de esta revista. En el anterior artículo, hemos explicado los sufijos del quechua en forma independiente, no combinada con algún nombre o verbo, y por su orden alfabético. Pero, no hemos dado la explicación suficiente para el grupo de los sufijos que varían según la persona: o sea la conjugación de verbos, los sufijos posesivos de pronombres y los sufijos de transición.

Entonces, en este artículo, tratamos de explicarlos esquemáticamente a lo posible.